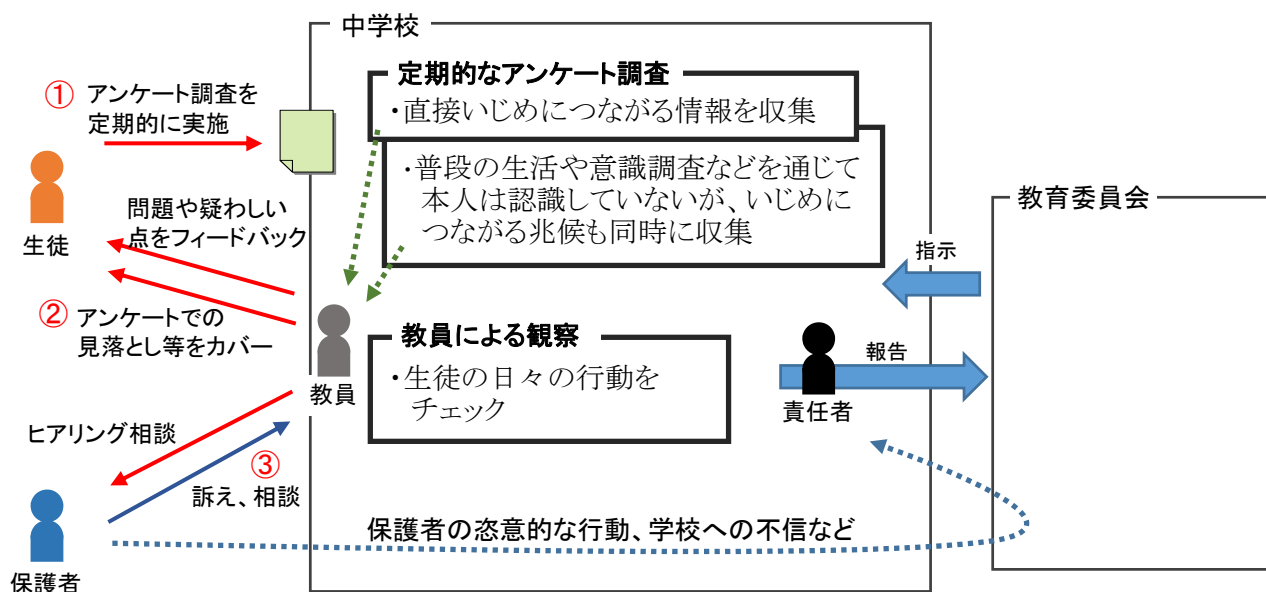


いじめ問題への対応を強化する提案

本資料は、公立中学校校長経験者への聞き取りなどを参考に、中学校での「いじめ問題への対応」に絞り、早期発見・早期対応・解決に向けた効果を前もって発揮する手段を提案することを目的に作成しました。

1. 「いじめ問題の対策」の現状

(1) 生徒、保護者、学校(教員、責任者)、教育委員会の関係



学校からの定期的なアプローチ

- ① 生徒へのアンケート(原則記名)を通じて、いじめにつながる情報を収集する
 - ・直接いじめにつながる情報
 - ・本人も意識していない、いじめにつながる兆候、心の問題

学校からの日常的なアプローチ

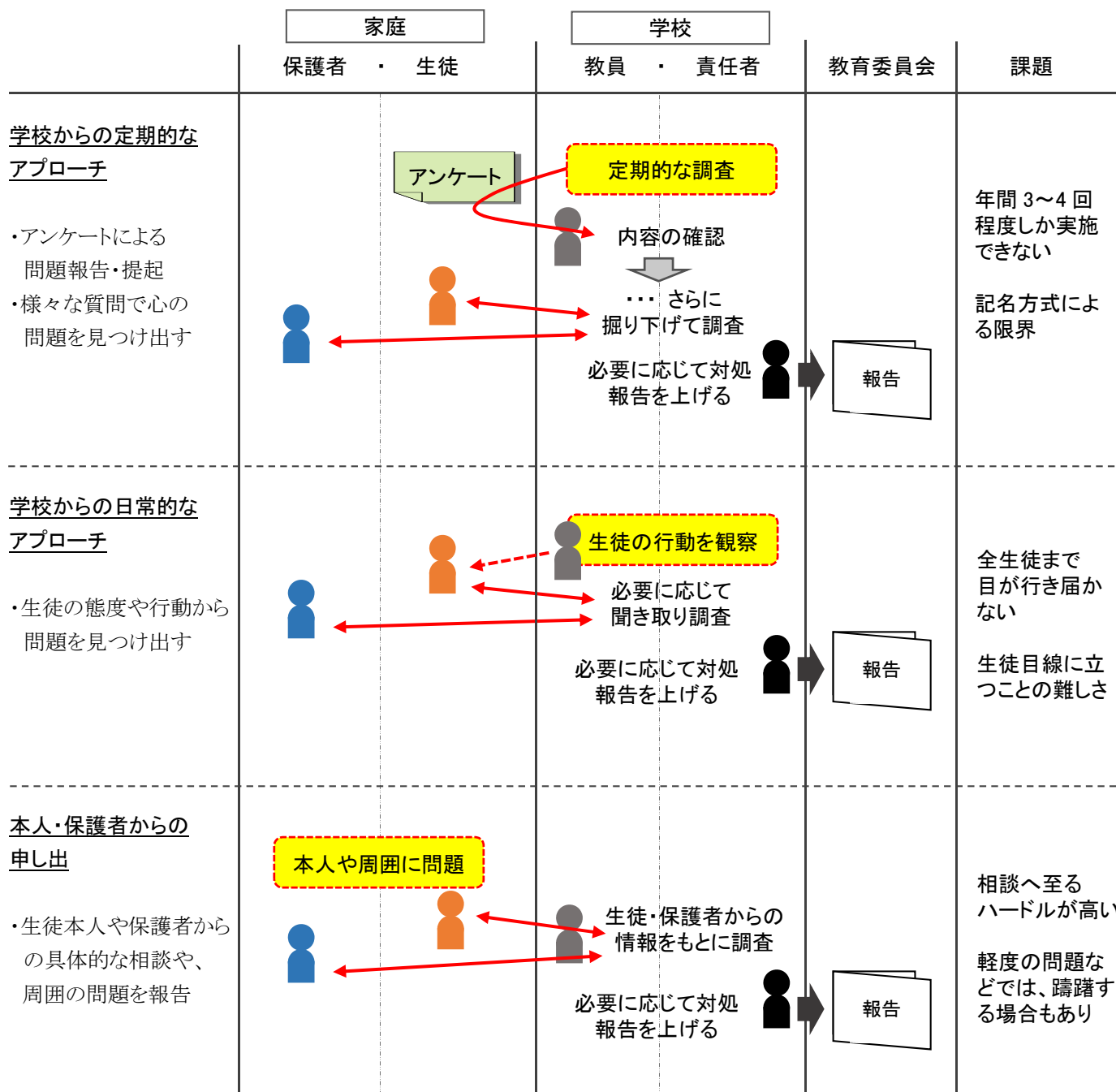
- ② 教員が生徒を観察し、いじめにつながる情報を収集する

本人・保護者からの申し出

- ③ 生徒本人が自分で教員へ相談、または、子どもの状況を見て、保護者が教員へ相談する

学校への申し出にためらいがある場合には、教育委員会へ相談するケースもあり

(2) 「いじめ問題の対策」の流れ



現状での中学校における「いじめ問題への対応」は、以上の様に家庭と学校が協力する形での対応となっています。

しかし、これらの方策を補い、いじめ問題を未然に防ぐためには、解決すべき課題があります。

！課題

- ・記名方式アンケートの限界、報告を躊躇するケースもあり
- ・問題発生とアンケートの実施タイミングに時間差がある
- ・教員による観察には限界があり、目が行き届かないところがある

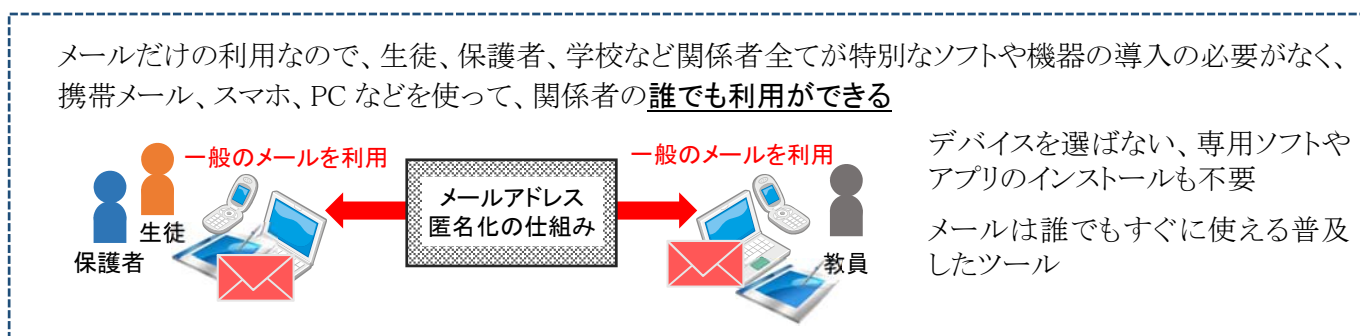
3. 「いじめ問題の対策」の課題解決策の提案

既存の対策を補完して、学校と保護者・本人が一体となって、
重大な事態になる前の対応を可能にする「匿名のメール相談」

(1) 匿名のメールサービスを使って、新たに家庭からの情報収集ルートを作り出す

【特徴】

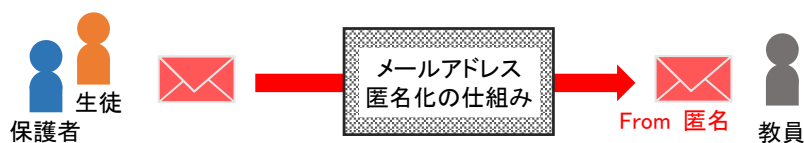
メールを連絡手段とすることで、いつでも生徒・保護者から連絡を受けることができる
メールアドレスの匿名化で、生徒・保護者のアドレスが匿名になって学校側へ届くので安心して相談できる



	家庭 保護者 ・ 生徒	学校 教員 ・ 責任者	教育委員会	メリット
<p><u>本人・保護者からのアプローチ</u></p> <p>・生徒本人や保護者から問題があるその時に、匿名で連絡を入れる</p>	<p>本人や周囲に問題</p>	<p>メールを受け取り、生徒本人や保護者と繰り返し連絡を取り合って調査</p> <p>必要な場合は、直接連絡を取り合って解決</p> <p>報告を上げる</p>	<p>報告</p>	<p>匿名による相談のしやすさ</p> <p>些細な情報も気軽に伝えられる</p> <p>匿名でも何度も繰り返し詳しく確認できる</p> <p>匿名(メール)、実名(対面)の二段階の対応など...</p>

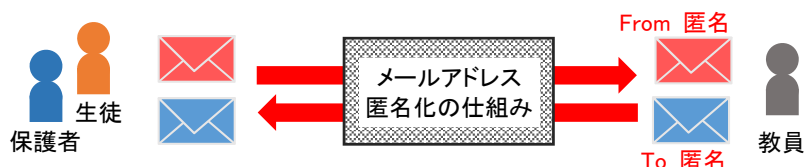
(2) 「匿名のメールサービス」を使うことで、匿名のまま具体的に対応することもできる

- ① 相談する側(生徒や保護者)のメールアドレスが匿名化され、無記名での相談で相談する側のハードルがさがり、広く情報を収集できることが期待できる



相談者のメールアドレスが匿名になるので、相談や報告がしやすい
教員は、誰からの相談なのかこの時点ではわからない

- ② 匿名の相談者に対して確実に返事を送れて双方向の連絡手段が確立できることで、情報の裏付けや掘り下げの手段を得て、正確な情報が入手できることが期待できる



匿名の相談者に返信して、双方向でメール連絡ができる
匿名のまま情報のやりとりができるので、詳細まで繰り返し情報収集できる

- ③ いつでも必要な時に、相談者側からアクションが起こせ、タイムリーな報告や情報が得られる
実際に問題が発生したり、気が付いたその時に、保護者や生徒本人からアクションを起こせる。

- ④ メール送受信の記録を残せる



携帯や PC、スマホにメールが残るので、相談の経緯を確実に管理できる
言った、言わないのトラブルを防ぐ

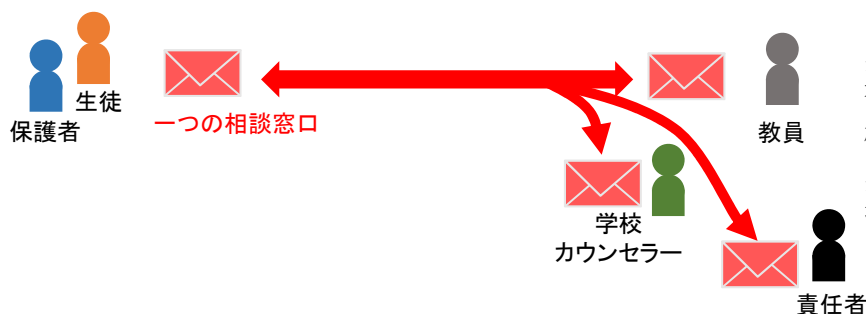
- ⑤ メールだけで解決できれば、本人の顔を見ずに匿名のまま解決できるケースもある
メールのやりとりだけで解決ができれば、生徒や保護者の負担も小さく、学校生活への影響も少ない。

- ⑥ 相談の内容は関係者だけが閲覧できて、学校以外の人間が介在しない



外部の組織や第三者による伝達などを経ない
安心して情報のやり取りができる

- ⑦ 教員と学校カウンセラー、責任者など、複数の関係者で情報を共有できて相談にも対応ができる



生徒や保護者からの相談メールを複数人の関係者間で共有して、問題に取り組むような運用ができる
生徒や保護者へメールを送れる担当者を限定することもできる

その他、匿名メールサービス(本サービス - SafetyAnswer)を利用したことによるメリットとして

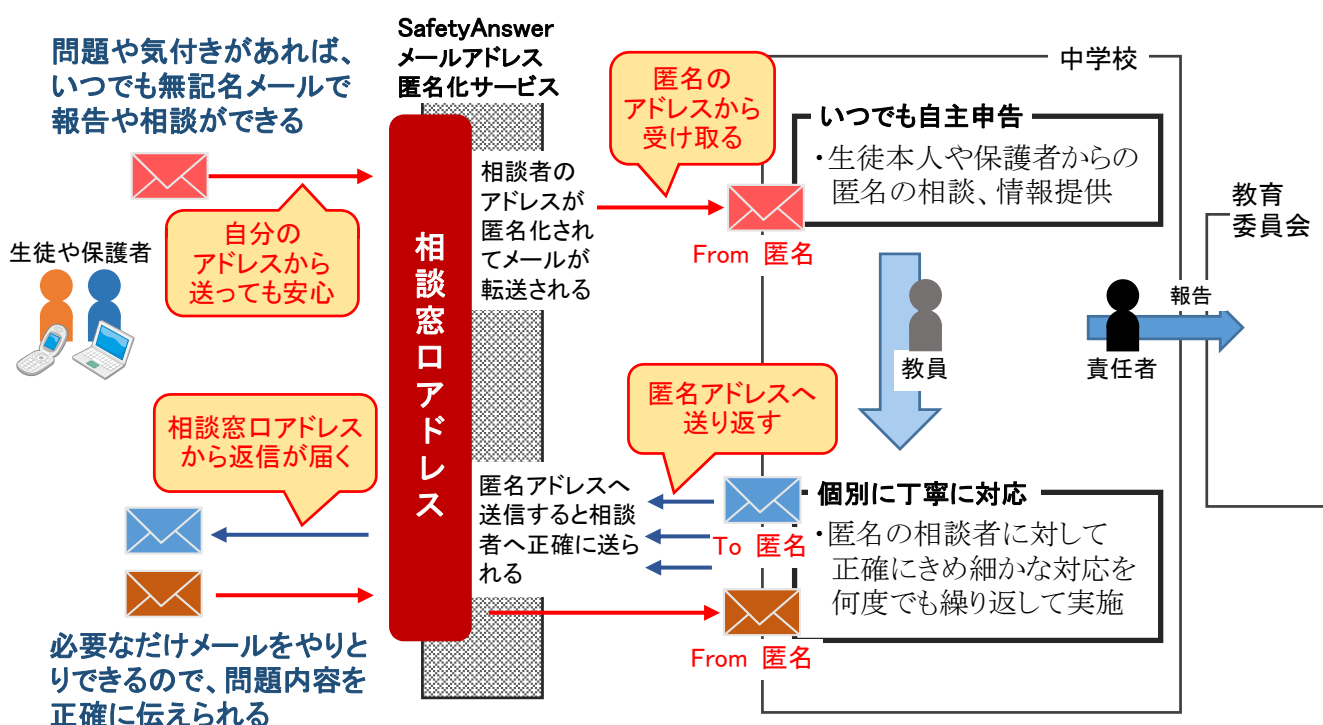
⑧ 匿名メールアドレスは情報漏えいの心配が無い

生徒、保護者から受け取ったメールの匿名化されたアドレスは、メールを受信した学校側の担当者以外からはメールの送信ができない安全なメールアドレスで、外部に漏れたとしても利用することができない。

⑨ 生徒や保護者への返信時に責任者などの承認を得る運用ができる

教員から生徒や保護者へメールを返信する際に、責任者などを含めた任意の複数人の承認を得た後に送信される様な運用ができる。

(3) 「匿名のメールサービス」を使った「いじめ問題メール相談」のイメージ



生徒や保護者は、学校が用意した専用の「相談窓口アドレス」宛にメールを送信します。

「相談窓口アドレス」で受信したメールは、送信者のメールアドレスが匿名になって学校側の担当者のメールアドレスへ届きます。

学校の担当者は、受け取ったメールの匿名化された送信者アドレスを送信先としてメールを送信することで、生徒や保護者へ正確にメールを返信することができます。学校側から送信するメールの送信者アドレスは、相談窓口アドレスとなり、学校側で使っているメールアドレスも生徒や保護者へは通知されません。

メールアドレスの匿名化の仕組みの中で、メール本文に記載された署名なども同時に匿名化アドレスに置き換わりますが、添付データ内に記載されたアドレス等は、そのままの形で送信されるので注意が必要です。

4. 提供する「匿名のメール相談」サービスについて

① 製品名称 SafetyAnswer セイフティー・アンサー
<https://www.ans.email>

② 製品概要

メールアドレスを秘匿化する独自技術により、自分のアドレスを相手に知られずにメールに返信できたり、届くメールの送信者のメールアドレスを匿名化することで、個人情報を守ることを目的としたシステムです。

製品のコンセプトは、メールアドレスを教えずにメールを送るのではなく、メールを受信する側がメールアドレスを収集しない目的で、メールを最初に受ける側が導入するサービスになります。

メールを受信する側は、受信したメールアドレスを慎重に管理する必要があります。大きな組織であればあるほど、広く散在するメールアドレスの漏えい対策は難しくなり、既存のどのような手段をとってしても完全に情報漏えい(メールアドレスの漏えい)を防ぐことは困難でした。

SafetyAnswer が導き出した結論は、組織の内部へ顧客(メールを送ってくる外部の送信者)のメールアドレスを持ち込まないという方法です。目の前に有効なメールアドレスが無ければ、持ち出すことも、紛失することはありません。故意、過失を問わず、メールアドレスが持ち出されることがなくなります。

SafetyAnswer の利用分野は広く、ファイアーウォールに守られた大きな組織での内外のメール環境を分離することによる標的型サイバー攻撃対策、企業の外部メール転送時の顧客メールアドレス漏えい対策、匿名メールアドレスによる匿名相談、個人利用でも一時メールアドレスの払い出しなど、様々な分野での利用を想定しています。また、簡単に送信者のメールアドレスを匿名化できることから、学校・PTA や町会・自治会などでのメール一斉配信システムとしても利用できます。

その他、送信メールに複数人による高度な承認機能を実装できたり、メールを受け取る相手を限定することでホットラインの構築など、応用範囲が広いサービスになっています。

③ 提供形態

クラウドサービス型	メールアドレス単位、ドメイン運用単位	年額 6,000 円(税別)～
オンプレミス型	サーバシステム提供	300,000 円(税別・ソフトのみハード OS 等別途)～

④ 導入実績

都立光が丘高校 PTA	保護者向け一斉メール配信	クラス別にアドレス管理して一斉配信
練馬区町会連合会	町会・自治会向けメールリスト	町会・自治会別に管理して一斉配信
NPO 団体	会員向け情報配信	会員 300 名向けの情報配信
他		

⑤ 開発・販売

株式会社エクセス	東京都練馬区早宮 1-18-15	
	☎ 03-3991-5716	Email : info@xes.ne.jp
特定非営利活動法人インターネットビジネス研究所		
	☎ 050-7502-9800	Email : info@ib-r.com